

# つぼ巢から虹の橋まで

---

栖~SUMIKA~



# これまでの経過報告

---

## 1, きっかけ

2008年に出会ったサザナミインコをきっかけに再び愛鳥との暮らしが始まりました。

この子は2021年の12月31日に12歳4ヶ月で逝ってしまいました。

思えばこの子の死が栖としての活動を本気で進めはじめた転機となったような気がします。



—再び、といたしますのは、過去に飼い主が20代の頃、数年間だけ何羽かの小鳥たちと暮らす日々がありました。

たくさん喜びも、先立たれたときの悲しみも目まぐるしい毎日の中に確かにありました。

やがて、人生の節目を迎える出来事とともにいつしか小鳥との暮らしは一旦終わりを告げました。

20代の自分はまだ子供（未熟）で本当の意味で命と暮らすという真意が解っていませんでした。

年齢とともに命の重みはあらゆる面で重く感慨深くそしてそれは徐々に段階を積みながら理解が深まっていくものなのだ、と、  
齢50過ぎた現在はつくづく感じています。

若年の頃でも日々の多忙の中で、小鳥と暮らしていたやすらかで平和な記憶を懐かしむことはありましたがその当時の仕事の忙しさを思うと、

とても命を預かる余裕はありませんでした。  
仕事と人間の子を育てることだけで  
手一杯だったのです。

月日は流れ、再び小鳥と暮らせる余裕のある  
環境に恵まれ、今度こそ落ち着いて十分に  
小鳥の魅力に取り憑かれていく中で、  
こんなに小さな命がこれほどまでに  
大きな心の充足や平安をもたらしてくれることへの  
驚きと喜び、またその偉大さに  
改めて感慨深さを味わったものです。

## 2、つぼ巣はじめ

小鳥への興味や知識が深まる中、  
更に転機を迎えた出来事がありました。  
様々な小鳥と接してゆく生活が始まったのが  
2012年、その中で初めて、自宅で文鳥雛たちが  
雛を誕生させてくれたのです。

それ以前は、不十分ではあるものの、  
飼育書片手に、また、小鳥の病院で得た知識、  
懇意にしてくださっていたショップさんや  
ブリーダーさん方の助言をいただきつつも  
まだ、単なる「コンパニオンバード」的な目線で  
小鳥と関わってきていたのだと思うのですが、  
ペアで迎えた文鳥を雛時代から自分の手で育て、  
その2羽が夫婦となり、雛を誕生させてくれたことは  
当時の私にとっては大きな大きな喜びでした。

命の煌きを感じ、また一方で重さも感じました。  
それと並行して先任の鳥たちも様々なインコ、  
フィンチがおりましたが個々に性格も習性も  
異なるため、益々追求心に歯止めがかからず、  
あれよあれよという間に100羽を超える大所帯となりました。

### 3、小鳥と日々と

日々のお世話に追われながらも、小鳥とともに生活自体を楽しみたい、更には人生を謳歌したい、とまで思うようになり、小鳥にまつわるすべてのものに興味を抱くようになりました。それは人間としての生活日用品、例えば家具、テーブルクロスや時計やバッグ、靴、傘、書籍、その他諸々の雑貨など小鳥のデザインや柄のものは探してみると実に様々なものがあり、今でも見つけては手に入れたりしてしまいます。また、アンティークや海外のものには、日本にはない感性のデザインのものがあったりするものですから、興味深くこれもみつけるとついつい買い求めたものです。更に自分の身の回りのものだけでは飽き足らず、日常に小鳥のお世話をする中で、小鳥たちの環境がどうも雑多で味気ない気がしたものですからケージ（鳥かご）を海外の趣のある古いものにしてみたり、止まり木（バードスタンド）をお洒落なキャンドルスタンドで作ってみたり…外出やドライブにも連れ出したいと鳥仕様にしたバードキャリーまで揃えてしまいました。犬猫用の循環系の給水器を小鳥たちの水浴びプールにしてみたり。それはそれは、日常が小鳥に参加してもらうことによりささやかでも満ち足りた幸せを存分に感じられる時間が増えていきました。そしてSNSの時代が幸いして、そんな小鳥との暮らしを発信して、見てくださる方がいて、コメントなどをいただけるようになったりすると、楽しい和が広がっていくことになり、ますます鳥沼にハマっていったのです。

### 4、古物商許可証

上記のような生活をしていると、何しろ雑貨や小鳥にまつわる日用品も増えたり、SNSで見てくださった方からどこで入手したのか？販売はしているのか？など問い合わせもいただけるようになりました。いつしか、仕入れて販売することも始めており



ましたが、古いものも取り扱ったり、古物ゆえ一点ものになるため撮影にだけ使いたい、などのお声も頂いていたため、一時貸出なることをする機会もありレンタル業には古物商許可が必要だということを知りました。

そのため、届け出を済ますに至っております。

## 5、免罪符

小鳥に限りませんが、命と生活を共にするということは楽しいことばかりではありません。

命あるものは病気もしますし怪我もします。

不慮の事故や病気で先に逝ってしまった子たちも多数。

その度に、何度も悲嘆したり沈黙したり

意気消沈したり、後悔したり懺悔したり…

初期の頃は特にこの「死」という出来事で命と暮らすことから離脱することも多々ありました。

「羽」羽、見送るたびに、悲しみは等しいとしても個々に違う感情があったり、思い出の紡ぎ方もみんな同じではない分、個性があり「羽」羽がそれぞれ違った命であること、そして巣引きして

2世や3世が生まれたり、その親たちが天寿を全うしたり、また、病気で死なせてしまったり、雛の時点で不慮の事故で逝かせてしまったり…などめくるめく命の有り様が部屋の中で営まれているわけです。それらの死はやはり重く、同時に敬意を感じずにはいられないのです。

そして、同じ時を過ごし縁あり出会えた命ですから、やはりその生涯もきちんと受け止め最後は丁寧に供養したい。

そういう思いから弔いについて自分なりの考察や実務に携わったりしながら動物葬祭ディレクター認定を取得しました。弔うことにたいして、なにか内に入れておかなければ、今後は何もできない…してはいけません。

そう感じていたのです。

これは、いうなれば小鳥たちへの免罪符なのです。

## 6、様々なブリード

つば巢、箱巢、巢じゃないケージ床の新聞紙の下、  
孵卵器など、様々な「巢」から色々な種類の鳥たちが  
誕生する経験もさせてもらいました。

文鳥から始まり、コキンチョウ、キンカチョウ、  
ダイヤモンドフィンチ、カナリア、アキクサインコ、  
大型セキセイインコ、羽衣セキセイインコ、  
ウスユキバト、孵卵器では種卵から5羽の  
イワシャコも孵化しました。

後半は本当に新しい命の誕生に夢中になって  
しまった時期も。終生飼育をモットーに  
していますのでセーブはしながらと言いながらも、  
そろそろ限界です（そう言い始めてはや10年ですが）



比較的、手もかからず、日本人の住環境や日常生活  
に合っているのかな、と飼育していて実感としてあるのは、  
**文鳥、アキクサインコ、マメルリハ**でしょうか。

鳴き声が音量的には静かなこと、破壊力が小さいこと、  
体が小さいこと、などが理由に上がりますがこれはあくまでも  
ヒト側の勝手な見解です。

そしてポイントとなるのが、多頭で同居が可能か？  
ということなのです。これは余談ですが

キンカチョウも我が家では飼育しておりますが、  
1度に4羽～6羽の雛が孵ります。それはそれは  
可愛らしく本当に愛すべき大好きな存在なのですが、  
彼らは飛べるようになると喧嘩が絶えないことが  
ままあり、羽を筆ったりちょっと一緒のケージに  
いれておくのを躊躇せざるをえないほど闘争心が強い  
個体が多く、結果的に別居が必要になることがありました。  
それはすなわち限りある人間としての住環境スペース  
に影響が出てくるということです。上手に飼育されている飼い主さんも  
たくさんいらっしゃいますが、私の場合は反省然りです。

比較的、繁殖も容易なため油断するとねずみ算式に増えていきますので  
スペースやお世話する時間に余裕がない場合は安易な繁殖は避けるよう  
心がけたほうが人のためにもキンカさんのためにも賢明です。

繁殖を目的とするのでしたら、個人的に

次の3種は飼育しやすい実感があります。

繁殖経験の元、私が最も現実的に飼育がしやすかった鳥種を下記にあげておきます。

※あくまでも私個人の見解であり、個々の飼い主さんのご性格や環境にもよりますのでその点を ご承知の上、参考までに、ということにさせていただきます。

### ①アキクサインコ

アキクサインコは大きさはややありますが、放鳥を一斉にしても出し始めこそざわざわすれど落ち着くと大人しくしていますし、たまに床をテケテケとみんなで走り回ったり

止まり木やヒトの肩でまったりしている様などほんとうに平和で癒やされる愛らしい鳥です。

個体差はありますが人馴れもちゃんとします。

食事も普通のセキセイインコのブレンドに定期的に麻の実や、むきオーツなどをプラスしてあげたりネクトンを与えるだけでほぼ問題なく育ってくれます。

唯一、赤い目ということもあり、光にはやや弱いようですが直射日光からの回避や免疫力を高めてあげることが心がければ50羽以上、雛を見てきておりますが大病した子はおりません。

敢えて言うとなれば難関はペアリングが難しいので、雛を獲得できるようになるまでにある程度の時間を要することくらいでしょうか。

デリケートはデリケートですがオカメインコに比べればよっぽど、のほほんとした子が多い気がします。

ドライブや旅行にも幼鳥うちから連れ出せば問題ありませんでした。

あ、でも、夜中のオカメパニックのような現象は地震のときなどは起こることがあるのでこは注意が必要です。基本、平和主義なので複数羽でしかも異種の鳥さんと同居したとしてもほとんどトラブルはありません。が、気の強い種と同居させると虐められてしまう可能性はあるので、



その点は注意深く見守る必要があります。  
羽色はノーマル、ローズ、イエローファロー、  
ルビノー、ルチノーが基本となりますが様々な  
色変わりを見かけるようになってきています。  
私のところではルビノーとルチノーが多いです。  
美しい色合いで一緒にいると幸せな気持ちになります。  
**落ち着きがあり静かに寄り添ってくれるような  
それでいて保護本能を満たしたい。  
そんな穏やかな癒やしを欲する方に  
最適の鳥さんと言えましょう。**



## ②文鳥

次にフィンチとして代表格の文鳥です。  
寒さには若干弱い印象ですが一冬越すと俄然、  
丈夫で逞しい面を強く感じます。  
食欲旺盛で稗、粟、青米、その他雑穀など  
なんでもよく食べます。  
色もノーマル、サクラ、シナモンやクリームなど  
基本はこの4種から近年ではパステルをはじめ様々な  
色変わり種が世に知られるようになり久しいと思ひ  
ます。性格は個体差はあれど、どの子も気が強いと  
いうか動じない子が多いです。闘争心も強いため  
ぎやるると怒りの声で威嚇をする場面も多々見られ  
ますが、雛のうちから一緒に飼育していると集団でも  
そこまで酷い喧嘩はしていないように感じます。  
1羽で雛から世話をしていればとても良く懐き持ち前  
の賢さに驚かされます。  
カラスが小さくなったような印象でしょうか？  
そして他のフィンチと違い脚が長いです。  
また、我が家では繁殖も秋口あたりから準備して  
毎年、クリスマスからお正月～2月、3月辺りまで  
雛をとることが出来ています。  
注意すべき点は、爪の伸びの早い子が多く伸び過ぎの  
爪はつば巢にひっかけり事故の元となりますので、  
小さいうちから爪を切る行為に慣らしておくことが



とても大切です。止まり木の質を変えてもよいかも。爪切りの際、保定をしっかりとし、足の股関節の脱臼など思わぬ事故に繋がらないように注意しましょう。また、光不足により、換羽がうまくいかず頬の羽の交換が正常に完了しないことも。

定期的な日光浴とビタミンの補給には気を配られたほうが良いです。

身体や羽の健康のためにも水浴びはいつでもできるようにあまり放鳥をしないのであればケージに備え付けたほうがよいでしょう。

繁殖をしたい場合は1歳位の若いペアに日常の食事にプラスして青菜、エッグフード、カルシウムをふんだんに与えてつぼ巣を設置してケージ天井は新聞紙などで覆いましょう。

覗きたくても覗かずそおとしておいてあげましょう。文鳥は繁殖は比較的容易と思います。

1羽で飼えばその小ささの数百倍の愛情を感じさせてくれますし、繁殖して家族単位で観察すれば野生でもこうしているのかな？と想像を掻き立てられるような鳥生の縮図を観せてくれると思います。面白く趣や風情もあり、体の小ささの割には寿命も長い子が多いのも魅力です。

雛時代はくすんだ羽色ですが換羽後の美しい羽への変身には感動するでしょう。

古くから文豪やアーティストさんに好まれる小鳥。文鳥は奥深いです。一緒に暮らしてみるとじわじわと生活に溶け込んでくれる素敵な鳥さんだと思います。

家でお仕事しているとき、たまに絡んでくれたり、  
仕事にもちょっとちょっかい出して邪魔かと思えばそっぽをむいて急にしらっとしてみたり、  
自分の世界もちゃんと持っている。

自分の意志で部屋の中で楽しく過ごしてくれる  
そんなツンデレな猫っぽい鳥さんを欲する方に  
最適の鳥さんと言えましょう。



### ③マメルリハ

最後にインコ類の中で最も小さなマメルリハです。

マメルリハに関しては小鳥生活の後半、

比較的、最近飼育を始めた種です。

初代のマメルリハは女の子で飼い主の不甲斐なさゆえ

卵のトラブルで若い年齢で逝かせてしまったという

悲しい過去がありました。しばらく手を出しては

いけないと思いセーブしていました。

が、コザクラインコのペアを飼育し始めて卵は産んで

もペアであると正常に発情し産卵し、身体的な

トラブルも比較的起きないのだと妙に腑に落ちるものが

あり、元より愛情深い子育て好きな鳥種でもあるので

ペアで再度飼育してみようと思に至りました。

現在はまだ、雛は誕生していませんが、定期的に巣箱

へ入り、仲睦まじくしています。

産みっぱなしということも無いようで、ある程度の

期間を経た無精卵は諦めて何事もなかったかのように

また夫婦の日常を仲睦まじく過ごしているようです。

↓羽だけの子も中雛の状態を迎えましたが

屈託のない明るい性格で陽気です。かといって

大きな声で鳴きさけぶこともほとんどなく、

↓羽で育てると片時も側を離れないくらい

飼い主にベッタリになります。

飛び始めてしばらくすると戯れ期とでもいうので

しょうか、ちょっとガブガブ時期があります。

けっこう痛いですが子犬が歯固め期に尖った歯で

ガブガブ噛んでくるあの現象に似ているような気がします。

そしてその行為は↓歳を過ぎたあたりから

落ち着くように思います。

「わんこ」ですね。マメルリハは。

しつこい子犬みたいな感じです。

男の子はおしゃべりも覚える子が多く、セキセイさん

ほど流暢ではありませんが短い単語なら話す子も

多いようです。食事はセキセイさんの基本フードに

ムキオーツや麻の実、ひまわり、カナリーシード

などちょっとパワー系の飼料が必要です。



そしてマメさん特有でしょうか？水をものすごく汚します。なんでも水に入れて食します。特に青菜は水に浸して青汁でも作っているのか？と思うほどです。私の家にはシロハラインコも1羽いるのですがシロハラインコと行動や性格、気性が似ているように感じます。シロハラさんを小さくした感じ。体型も等身も似ています。べったり濃厚な絡みと愛情に応えられる持久力のある方にふさわしい鳥さんだと思います。はい、しつこい系です。羽色は我が家はブルー系の子とイエロー系の子がおりますがコザクラやボタンのように複雑に様々な色変わりが出ているようです。このあたりはまだ、繁殖未経験なので追々学んでいきたいと思っております。

**シロハラは好きだけど大きすぎるし飼えない。  
でも、わちゃわちゃと一緒に遊び倒したい！  
鳥さんに対してやんちゃで存在感ある濃密な  
関係を欲する方に最適な鳥さんと言えましょう。**

以上3種が

「狭い部屋でもたくさんの鳥達と豊かに暮らしたい」  
私の鳥と暮らす目的を叶えてくれた鳥種たちです。

他の種も多々おりますが

- 1, 入手が困難
- 2, 飼育が困難（物理的、状況的に手間がかかりすぎる）
- 3, 人ごときが着手しては罪なほどデリケートな個体
- 4, 飼育スペース的問題により健康体に飼育が困難
- 5, 日本の気候及び現在の住環境に適さない
- 6, 鳴き声の問題
- 7, 排泄物の特殊性による困難
- 8, ひと財産潰すほどコストがかかり現実的に無理
- 9, 鳥の病院で症例がないほどの珍種
- 10, 他種に事故や危害を与えかねない凶暴性
- 11, 鳥類以外の動物

上記に1つでも該当する種はブリードしないことに



しています。環境が変わったり問題解決策が見つければこの限りではありませんが無理をすることは自分にも鳥にも良からぬことしかもたらさないと思うのです。

他の種もブリードしたいのですが難易度や様々な問題に直面して現実的ではないと判断し制限しています。この冊子のところどころにも登場しているダイヤモンドフィンチやコキンチョウもそうです。本当はもっとたくさんの雛ちゃんに出会いたいのですが…先の彼らが濃厚すぎて燃え尽きましたし代わりがないほどの溺愛ぶりでしたから…なんていうとアキクサさんたちや文鳥さんに失礼ですね。反省。

ここまで来るにはそれはそれはたくさんの紆余曲折がありました。悲喜こもごも、晴れたり曇ったり…です。きっとこれからもずっとそうなのだろうと思います。



小鳥と暮らしを共にすることで  
日日是好日…そのような心持ちになれるから  
私は鳥たちと関わっているのではないかと思うのです。

## これから目指すところ

### 1, 第一種動物取扱業

様々な種の鳥と暮らし、繁殖も試みる中で「販売はしないのか」という問いが人様からもそして自分自身のなかにも当然ありました。生き物を扱う以上、行登録は必要と解っていましたし、随分早い段階で「販売」に関する登録は済ませておりました。



しかし、もはや家族である愛鳥に値段をつけて  
販売のみをする…という行為に終始したくないという  
思いからなかなか本腰を入れてそれを目的とした繁殖の  
段階には至りませんでした。その一方で、頻繁に誕生する  
命たちはひとところに留めて果たして幸せか？  
——そんな葛藤もずっとあり…

- ①小鳥と暮らす
- ②世話をする（日常や鳥自身の繁殖の補助）
- ③生活に潤いや規則正しい習慣がうまれる
- ④楽しい、気持ちが明るくなる（視覚、聴覚、触覚）
- ⑤困難発覚（小鳥の体の不調や飼育環境の見直し）
- ⑥学習する（事柄への対処）
- ⑦知識が深まる（達成感）
- ⑧もっと知りたくなる（向上心）
- ⑨外の鳥にも興味が湧く（野鳥や他の飼い主さんの愛鳥さんなど）
- ⑩外出する（散歩や旅行や買物どこにいても鳥の存在は感じられる）
- ⑪知識が深まる（遠観的に鳥を観る）
- ⑫誰かと語り合いたくなる（愛鳥や写真やグッズなどを通じ）
- ⑬交流が生まれる（SNSや各種コミュニティなど）
- ⑭健康や病気の情報交換をする（交流や小鳥の終活）
- ⑮世話をする（通院や看病）
- ⑯看取り
- ⑰弔う
- ⑱供養
- ⑲穏やかで静かな幸福感（悟り）



上記は小鳥との暮らしによって育まれる暮らしの  
おおまかな一連です。もちろん、私個人の認識ですが、  
鳥飼いさんなら共感していただける部分もあるので  
はないでしょうか。

①~⑬までのごく普通に認識されている方も  
多いと予想いたしますが、これらは小鳥との暮らしの  
「楽しくて幸せ」な部分です。

小鳥さんからもらえる恩恵ですね。

それに続き⑭~⑱、いわゆる心配事や悲しみが增える期間も

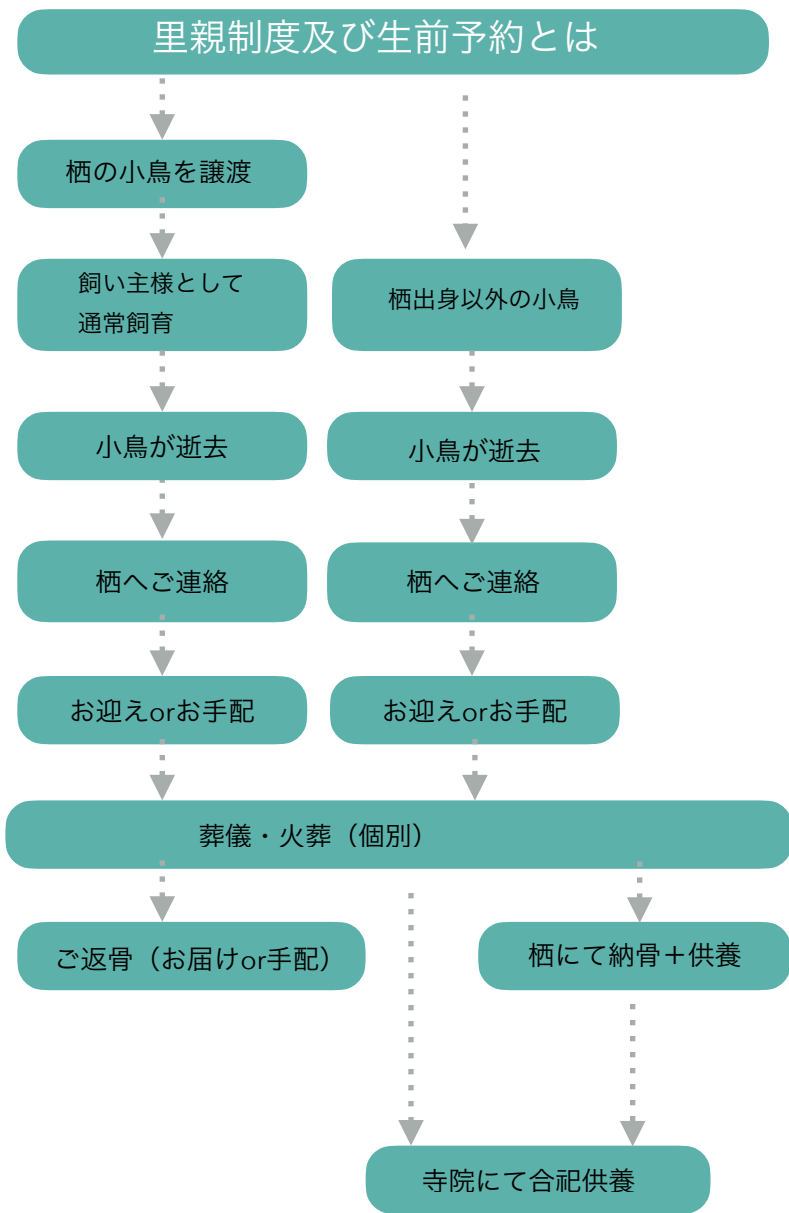
訪れます。自分の経験からも思うことがあるのですが  
今までおつきあいくださっていた鳥友さんにも  
⑮~⑱までの行程が辛すぎて、その後、小鳥をはじめ  
ペットと呼ばれる命たちと関わることさえやめてしまう…  
そんな方々もおられるようです。  
それはごく自然の心や行動の有り様ですし、ましてやそれが  
いけないということではありません。  
お気づきかもしれませんが、人が人に対する想い、  
人との関係性、人の一生、  
人と人との間に育まれる様々な愛情、  
人同士のお別れ…それらと基本、  
捉え方は大差ない、ということです。  
小鳥に限らず相手が誰であろうと  
①~⑬までの関係性が深くて濃密なほど  
⑭~⑱の悲嘆は強くなりそのままグリーフに  
なるのだと思います。

ただこちらでは、その悲しみさえも「愛おしい」に  
まで昇華させたいと願います。  
⑯~⑱はグリーフですのでケアが必要なのです。  
その行程と正しくつきあっていけた後にたどり着ける心の有様、  
それが⑲の「穏やかで静かな幸福感」なのです。  
終生飼養—命への責任。  
この部分をしっかり見据えない限りは  
先へは進めないとの思いから先に述べた免罪符を  
取得していたわけですが、せっかくここまで  
続けてきたのですから、やはり多くの方に  
小鳥との実りある豊かな暮らしを広めて最終的には  
穏やかで静かな幸福感を感じていただきたいと願うのです。

## 2、「里親制度及び生前予約」

以上のような過程の末から、栖では誕生した小鳥の  
「里親制度及び生前予約」を開始いたします。  
簡単にお伝えすると、私の元で生まれた小鳥を譲渡いたします。  
譲渡にはひとつだけ条件があります。  
動物愛護の観点に鑑み「終生飼養」を推奨するため

最後の時、⑰-⑱の項目（お迎え、葬儀（火葬）、納骨、返骨）  
をこちらで請け負わせていただくということです。



## 小鳥の譲渡について

● 栖にて生まれたフィンチ類、インコ類の（生後半年~1年）

の個体をお譲りいたします。※雛時期希望は応相談

① お譲りする小鳥については不定期にHP及びInstagramなどで募集を行っております。

② 生後半年~1年は健康体の小鳥をお譲りすることを判断するために適している為です。

● 譲渡後の小鳥は飼い主様所有の元、終生飼育をお願い致します

（栖側から積極的に事細かに経過を尋ねたり、画像提供を強要するようなことはございません）

● 譲渡に関しては小鳥の生体のみとなります。

譲渡後の小鳥の食住環境諸々の費用及び、怪我や病気による通院費用におかれましても飼い主様の任意責任、判断の元にて実費となります。

● 譲渡後は小鳥に対する所有権限及び責任はすべて飼い主様へ委ねられます。

● やむを得ない理由を除き、基本的に安易な譲渡のキャンセル、生体の戻しには対応いたしません。（里帰り、一時お預かりは応相談）

● やむを得ない事情が発生した場合はご連絡ください。

### ①ご予約

里親を希望される方は、お電話かInstagram内のDMにて譲渡小鳥対面見学のご予約をお願い致します。

ご予約されていない場合、ご対応できませんのでご注意ください。

また、里親希望以外の方の見学はお断りさせていただいております。

栖HP、Instagram等にて不定期にて譲渡募集の情報を投稿しています。

里親を検討する際、そちらを参考にご検討下さい。

- 予約電話番号：090-6312-4754
- Instagram：sumika2022
- 栖 HP <https://www.sumika2023.com/>
- 対面可能日時：火曜日、他、詳細等応相談

## ②対面にて見学

ご予約日にご来訪いただき、対面にて見学をしていただきます。

お迎えする子が決まりましたら、手続きに移ります。

当日ご準備していただく物

- 里親になる際の生前予約金（個々で生前予約金額を設定させていただいております）
- 連れ帰り用のプラケースなど（無い場合は有料¥500~にてご用意致します）
- 身分証（ご確認させて頂く場合があります）

### ※小鳥生体代金について

譲渡させていただく小鳥さんの代金は種類や年齢関わらず基本無償となります

※但し譲渡後の契約内容変更の場合はその限りではありません。

### ※生前予約預かり金について

・・・虐待・転売防止、安価を理由に安易なお迎えをする方を避けるために、また、終生飼育を現実化する為に譲渡鳥個々に生前予約金額を設定しています。

※下記及び別紙参照

## ③お迎え

里親及び生前予約書類に必要事項を記入していただき、ご納得の上、

お申し込みいただきましたら**手続きは完了です。**

小鳥の食事やカゴなど、必要なものがありましたら手続き終了後にご案内致しますのでお気軽にご相談下さい。

## 生前予約制度について

動物愛護に鑑み、命の安易なお迎えの防止と

終生飼養を現実化する目的とするものです。※別紙参照

- 栖でお迎えいただいた小鳥が飼い主様の元で幸せに過ごした後  
に亡くなった際に、お迎えから火葬、納骨及び供養までを  
実施いたします。

●飼い主様（施主様）同意の元、葬祭業務となります。

葬儀にご参加希望の場合は事前にお知らせください（※別途費用）

【お迎え時は…】

- ①お迎えは（関東圏内限定）直接お迎えに伺います（任意）
- ②配送手配…ご遺体を柩までお送り頂く方法ですがご連絡を頂いた後に配送に必要なものを一式、速やかにお送りいたしますので申し送りを参考に飼い主様のお手によりご用意を進めていただき、柩へお送りください。
- ③葬儀及び火葬の後、ご納骨となります。

【ご納骨及びご供養について】

- ①飼い主様ご自宅へお届け（関東圏内限定）  
※遠方でやむを得ない場合、適切な処置及び配慮の元、配送にてお届け（任意）
- ②柩内で合祀供養（ゆくゆくは寺院にて）
- ③ご葬儀の様子をお伝えできる写真冊子または動画など、飼い主様のご希望の方法でご報告いたします。
- ④故鳥のお骨、火葬証明書のお届け（※①の行程時）
- ⑤寺院内合祀墓にて合祀供養（むこう2年まで年2回の法要あり）
- ⑥上記の寺院内供養の場合、合祀供養証明書を後日お渡し（郵送）いたします。

※①、②行程はすべてご契約時のお預かり費用が適応されます。

※⑤の、直ちに寺院への合祀供養をご希望の場合は

別途費用が発生します（寺院内合祀供養法要費用として）

※⑤の寺院内供養の場所は東京都の深大寺が主となりますが他所で希望ございましたらご相談ください。

（必ずご希望処に添えるかはお約束いたしかねます）

※①の場合、標準2寸のお骨壺を骨袋に入れた状態でお届けいたします。作家作品などご希望がある場合は（別途料金）

事後発注の場合は受注制作につき、

数ヶ月お待ちいただくこととなります。

愛鳥さんがお元気なうちからご相談いただければそちらに

ご納骨した状態でお届けが出来ます。詳細はご質問ください。

※柩出身以外の小鳥さん葬儀もご相談ください。

# あとかぎ

---

## 【小鳥を介して慈しみや生き甲斐、追悼の心を】

小鳥と暮らしていると一日があっという間に過ぎていきます。  
日々の世話に追われながらも、毎日同じ日は無く、  
雛鳥の成長など見守ると、新しい命から学ぶこともたくさんあり  
生まれゆく命と逝ってしまう命、時にはこのうえない穏やかな喜びを、  
時にははとてつもない悲しみが襲うことも。  
目まぐるしい出来事が年間を通して起こりますから  
一年一年もあっという間に過ぎていきます。

小鳥以外の事も含めて人生ですが、その人生における様々な場面、  
困難の中にも、小鳥の存在は色濃く心の支えになっていたことは  
間違いありません。共依存という聞こえは悪いかもしれませんが  
それだけ私の中では大きな存在なのです。

小鳥の生涯をみとどけるにあたり、自分自身の終活も兼ねて  
葬祭関係の仕事に身をおいてみると、色々な発見がありました。

### 「仏具店のお客様」

まずはこちらへいらっしゃる方は  
大切な方がなくなり、その方を偲ぶためにお仏壇や  
お位牌、お墓を求めにいらっしゃる方が主なお客様なのですが  
悲しみの中にも、大切な方と語り合う場所がほしい、  
大切な方だからこそ納得のゆく供養がしたい…そんな人となり  
を存分に感じられる方々ばかりです。

なぜこのようなお話を？と思われるかもしれませんが。  
ところで、栖で誕生したばかりの小鳥たちをお譲りして

その時点から、もう亡くなったときのことを、だなんて、  
なんと不謹慎な…と訝しがられる方もいらっしゃるかもしれません。  
ご尤もだとも思います。  
しかし、これまでに掲げていたことの結論が表題のとおりです。

### 「つば巢から虹の橋まで」

私が携わるのは自分の愛鳥たちを大切に育てて、  
子が生まれれば、その子達も大切にお世話して  
免疫をつけて元気を送り出し、生涯を終えた暁には心からの供養をし  
飼い主様に感謝とともにお返しする（または栖で供養）一のみです。

本筋であるその鳥さんの濃い「鳥生」は  
新しくお迎えくださったご家族様との幸せな暮らしがすべてです。  
様々な幸せと絆が生まれるのだらうと思いを馳せます。

もしも受け入れてもらえるのであれば  
私の愛する小鳥たちの誕生から虹の橋への供養ができることは  
使命の遂行であり至極の幸せと心得ます。

もちろん、お譲りするからにはもう、飼い主様の子となるわけですから  
名前は最初からつけておりません。そして、小鳥さんとの絆を紡がれた後、  
飼い主様のお心のままのご供養をなされたい場合は、  
もちろん、飼い主様のご意思にお任せすることになります。  
栖で譲り受けた子だとしても、強制すべき事柄ではないと心得ます。

ここで、冒頭の「仏具店のお客様」のお話に戻りますが  
若いうちはあまり感じる機会が希薄でこのような感情にも疎かったのですが  
身近な命あるものの消失に対する喪失感というのは壮絶なものがあります。  
齢をある程度過ぎますと身近に起こることもあり私自身も経験しました。  
認識が現実味を帯びステージが変わってくるのです。

激しいグリーフの過程途中の方や、  
グリーフ期間が安定期に入り受け入れた状態のお客様とでは  
接客させていただいても感情面に大きな差があります。  
供養をする心持ちの方々は、そこはかかない悲しみは内に秘めていても



受け入れて亡くなった方との次のステージでの対話を求める方が多く、落ち着いた慈悲や慈愛に満ちた方が多いです。

後悔はあるが好きな人だったし供養をしたい、生前はこんなことがあった、あんなことを言われたり、してくれたり、本当に嬉しかった、など、故人様について語る言葉がすべてご供養になっているのだな、と思わせるのです。根本には故人を忍び、大切にしてきた、追悼のところが。そこには間違いなくありとあらゆる「愛」が存在します。

供養することを大切にできる方は「生」も、もちろん大切にできる方なのだと思うのです。そして愛する小鳥たちにはそのような優しいお心の飼い主様のもとに迎えていただけたらな..と。

栖の里親制度生前予約におかれましては供養することが前提にあることにより限りある生を慈しみ、かけがえのない時間を小鳥さんと過ごしていただければと願うのです。

どうか、素敵なお名前をつけていただき、あたたかなバードライフを。幸せな小鳥さんとの暮らしをお楽しみいただければとても嬉しいです。

幸せで楽しかった分だけ、失ったときを思うと…  
ですが、大丈夫です。その悲嘆は栖が引き受けます。

### 栖~Sumika~

〒104-0051 用京都中央区佃2-1-2-4001

運営責任者：諏訪和美

tel.090-6312-4754

mail.live.bird@icloud.com

